

○議長（高橋正博君）

3 番 大野一行君。

○3 番（大野一行君）

質問いたします。まず、最初の質問です。

土庄町行政における社会福祉拠点の整備についてということでございます。

少し補足説明をしますと、土庄町地域福祉計画第 4 期、ここに、土庄町から令和 4 年 3 月に出されています。これ、総合計画です。それによりますと、この中に、とてもいい中身になっています。とてもいい中身です。しかしながら、この質問は、私 2 回目でございます。これは三枝前町長による、町民不在の行政の結果、社会福祉会館が、本来土庄町の行政の福祉行政の拠点でございました。ところが、ご存知のように、社会福祉会館の問題が起きました。

本来なら、元の福祉会館に戻すべきところ、それは、極めて困難でありますので、その後、令和 3 年 9 月定例会において、「新庁舎周辺の既存設備を活用した社会福祉拠点の整備の考えは」との議員の質問の問いに、前町長は、「問題が出てくれば、整備も必要」と答弁しています。令和 4 年 3 月、定例会においても、再度議員から同じ問いがあったわけです。その後の行政における、取り組みの進捗状況を問います。

○議長（高橋正博君）

健康福祉課長 石床勝則君。

○健康福祉課長（石床勝則君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

社会福祉の拠点整備につきましては、大野議員のおっしゃるとおり、令和 3 年 9 月および令和 4 年 3 月定例会におきまして、ご質問があったものと承知しております。

ご存知のとおり、社会福祉協議会とは、社会福祉法第 4 条および第 109 条の規定に基づく地域福祉を推進とすることを目的とした、営利を目的としない民間組織でございます。

土庄町社会福祉協議会では、高齢者の在宅福祉事業・相談支援事業、地域福祉物品無料貸し出し、また、その他の活動といたしましてシルバー人材センター事業、老人クラブへの活動支援等、さまざまな事業を行っております。行政には手が届かない地域福祉の分野をきめ細かに担っていただいております。さらには、ボランティア団体など民間の社会福祉活動の発掘、育成等も幅広く担っております。

土庄町社会福祉協議会の事務所が移転したことによりまして、社会福祉協議会の業務やボランティア団体等の社会福祉活動が制限されるなど、一部問題が生じておりますが、健康福祉課といたしましては、現在、社会福祉協議会や土庄

町中央公民館の所管課であります生涯学習課とともに、中央公民館における社会福祉協議会の事務所の場所について、プライバシー保護の観点から個室へ移転することをはじめ、ボランティア団体の活動や利用方法などの問題解決に向けて、具体的に鋭意、協議を進めているところでございます。

さまざまな制約があることは承知しておりますが、当面できることといたしまして、近隣既存施設の利用を含めながら、社会福祉活動と生涯学習活動が両立できるよう、調整に努めているところでございますので、ご理解賜りますようお願いいたします。

○議長（高橋正博君）

3番 大野一行君。

○3番（大野一行君）

その後、だいぶ努力をいただいておりますが、もう少し具体的にですね、お知らせいただきたい。例えば、シルバー人材センター、老人クラブ、あるいは福祉団体等が既存の設備、施設、具体的にどう今やられているのか、進捗状況を知りたいわけです。お願いします。

○議長（高橋正博君）

健康福祉課長 石床勝則君。

○健康福祉課長（石床勝則君）

大野議員の再質問にお答えいたします。

シルバー人材センターと、あと老人クラブ連合会とにつきましては、こちらにつきましては、社会福祉協議会のほうが事務局をしておりますので、社会福祉協議会の事務所の中での活動というかたちになっております。

また、他の福祉団体につきましては、生涯学習課のほうと調整ができてまして、ある程度の部分については、調整ができておるとお聞きしております。

○議長（高橋正博君）

3番 大野一行君。

○3番（大野一行君）

少し、もう少し深めていきたいと思いますが、ちなみに隣の小豆島町の社会福祉協議会の位置づけなり、分かっていることがあれば、ちょっとお聞きしたいです。

○議長（高橋正博君）

健康福祉課長 石床勝則君。

○健康福祉課長（石床勝則君）

小豆島町の社会福祉協議会の位置づけについては、こちらのほうでまだ把握しておりません。申し訳ありません。

○議長（高橋正博君）

3番 大野一行君。

○3 番（大野一行君）

小豆島町に行ってきました。調査をしてまいりました。

小豆島町は本館にあります。社会福祉協議会が本館にあるわけです。

私、この話なぜするかと申し上げると、以前の議会でも三木議員から、「土庄町の福祉行政をどう捉えて、どうするのか、全体にわたって」という質問もあったわけです。その中で、大きな役割を果たしている社会福祉協議会が、小豆島町では本館にあるわけです。

これは、私から申し上げますと、いかに大事に重要視しているかということなんです。そのことは、この土庄町においても、捉え方が少し従来のです。少し甘いんじゃないか。だから、前三枝町長みたいな、現場を無視した大変な問題があったわけです。そのことは、再度深刻に考えていただきたい。とても重要な問題です。前回は申し上げました。今、高齢者 43.7%でしたか。ほぼほぼ半数の方、それだけではなくて、体の不自由な方、ほんとに大変な方たちを、やっぱり一人ひとりの町民の皆さんを行政が大事にする。そのことが、基本なわけです。そういう大変な仕事、現場で担っている社会福祉協議会が本庁にあるのか、外にあるのか、これは大きな違いなんです。

残念ながら、物理的に無理なようですけれども、本来なら、「隣の館が空いてますよ」と、さまざまな法律でいろいろ説明されますが、できるなら本館の近く、行政の福祉の中心、この社会福祉協議会そうあるべきだと思っています。

これは、これから土庄町行政の宿題であろうと、少なくとも本館近くか本館の中、隣の小豆島町はできてて、土庄町はなぜできないのか残念でなりません。

最後に、最近現場に行きました。社会福祉協議会の人たちが、ほんとに頑張っています。びっくりするほど、頑張ってます。

この、前回の三枝前町長の件から、引き続いて、新しい課長が頑張っておられる。これは、現場の人が言ってましたから、現場の人たちは、今、やっと現場の意見が取り入れられてきた。ぜひ、そのことを私に、ここで言ってください。お礼を言ってください。今までの態度と違いますよということの感謝の意を伝えておきたい。そういう意味でも今後の課題は、少なくとも本館の近くか、本館だと私は思います。

続いて、土庄町財政の状況について質問申し上げます。

令和3年度定例議会案、これ1年間の分、読ませていただきました。

まず、資料として申し上げますと、2021年去年です。四国新聞の12月17日金曜日、「土庄町の課題、町長選を前に財政状況一段厳しく」書かれています。この方は専門家です。経済の専門記者です。読みませんが、そのことが、これ2回目です。2回目触れられています。一応紹介をしておきます。

この総括の中に、やはり同じようなこと書かれています。土庄町の、この、文章

から、やはり財政は非常に厳しい。同じようなことが書かれています。その点について、現在の財政調整基金と起債残高について、町はどのように認識しているのか数字も上げてお答えください。それと、今後の見通しをどのように捉えているのか、お聞きをします。

○議長（高橋正博君）

企画財政課長 鳥井基史君。

○企画財政課長（鳥井基史君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

まず1点目は、現在の財政調整基金残高と起債残高についてでございます。

令和3年度末における財政調整基金、これは町の貯金に相当するものでございます。その残高は約18億円、地方債、これは町の借入金に相当するものでございます。こちらの残高が約130億円となる見込みでございます。昨年度取りまとめた町中期財政計画において、今後5年間で財政調整基金残高が約13億円となる一方で、庁舎建設事業等により借入れをしました地方債の残高は、約123億円と高い水準で推移する見込みとなっております。

2点目は、今後の財政状況の見通しについてでございます。

中期的な財政収支を推計することで、限られた財源の効果的な運用を図り、持続可能な財政運営を考えるとともに、昨年度は四国財務局により土庄町の財務状況に係る分析を実施していただきましたところ、債務償還能力および資金繰り状況などについては、「現状は留意すべき水準にはない」との評価をいただきました。

しかしながら、今後の将来見通しにおいて、施設の老朽化対策等の増加に伴う公債費の増加や財源不足に対応するための基金の取り崩しによりまして、債務償還能力について留意すべき水準となる見通しであることが示されております。また、人口減少に伴う税収をはじめ、その他の自主財源が減少する見込みである中、扶助費等の義務的経費の増加が見込まれるところでございます。

このようなことから、今まで以上に厳しい財政状況となる見通しでありまして、自主財源の確保はもとより、行政需要の変化に応じた事業の見直し、計画的な事業実施による負担の平準化、これらを図ることによりまして、公債費の増加を抑制することで、持続可能な町財政運営に努めてまいり次第でございます。

○議長（高橋正博君）

3番 大野一行君。

○3番（大野一行君）

たいへん分かりやすく説明いただきました。確かに、この文章の中にも、国の赤字の基準あります。これを超えると、大変なことになる。だけど、その、まだ下にありますよ、ということなんです。

もう1点参考に申し上げますと、香川県下17市町あります。統計ですから、必ずしも良いところ悪いところじゃなくて、土庄町の財政状況は、17市町の中の下から3番目くらいにあります。これはいろんな議論がありますが、1つは、確かに公共事業を行えば赤字は増える。これ見ますと、やはり土庄町の公営住宅の補修とか、あるいは、住民の生活に関する公共事業もやられてるわけです。それは、今後も必ず必要で、この新聞もここにも書かれてますが、今後必要なのは、優先順位の付け方が1つだと思っています。国が予算が付くから、ぱっと飛びつかない。やはり、土庄町行政独自の精査をしていく。このことが、たぶん強く問われる。そして、町民の生活に関する予算は、やっぱり、していかなきゃならない、執行しなきゃならないと思っています。再度、最後申し上げますが、やはり真剣に優先順位を議論して、今何が必要なのか、特に住民に関わる、生活に関する、そういうことのほうからできるだけ、そう願いたい。その願いを申し上げて、この質問は終わります。

続いて、公共施設の有効活用。これは、後程、井藤議員からも具体的に指摘がありますので、現在の土庄町の大まかな状況、井藤議員以外の公共施設のどう有効活用してるのか。少しだけ、時間がありますのでお答え願います。

○議長（高橋正博君）

総務課長 笹山恵子君。

○総務課長（笹山恵子君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

施設の統合・廃止等により空き施設となった公共施設の有効活用についてでございますが、旧大鐸小学校、旧戸形小学校、旧北浦小学校につきましては、地元からの要望もあり、改修後、公民館として利用しているところでございます。

一方、旧渕崎小学校につきましては、渕崎小学校跡地協議会において、旧四海小学校につきましては、四海小学校跡地利用委員会において、閉校後の跡地利用等の協議がなされてまいりましたが、現時点では、いずれも校舎施設が老朽化していることもあり、具体的な利用方法は決定しておりません。

また、土庄こども園開設に伴い、空き施設となっている旧愛の園保育所につきましては、庁舎移転により、園庭は、建設課や農林水産課のトラック等の車両の駐車場としており、園舎は、災害対策用物品や測量用物品等の倉庫として利用しております。

町といたしましても、利用可能な施設につきましては、地元のご意見も伺いながら有効活用を進めてまいりたいと考えております。

また、空き施設として大きなところにもなっております旧庁舎の活用方法についてでございますが、現在、旧庁舎自体は、瀬戸内国際芸術祭のアート作品の一つとなっており、ピロティは会期中、作品の案内所を設置しているところでござ

ございます。

今後の旧庁舎跡地の活用方法につきましては、周辺の高校跡地、東洋紡跡地、
荊崎小学校跡地など、旧庁舎跡地以外の利活用を検討すべき町有地等を含め、こ
れらの土地等をそれぞれ点として捉えるのではなく、面として捉え、役場内で検
討チームを組織し、将来を見据えた有効活用の方向性を検討してまいりたいと
考えております。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

3番 大野一行君。

○3番（大野一行君）

時間の関係で、次に行きます。

少し足しますと、いま、お答えになったとおり、ここにも書かれていますので、
うまく活用していただきたいと思えます。

最後の質問に入ります。小豆島中央病院企業団の経営状況について、参考を申
上げます。小豆島中央病院の同じ時期に、坂出市立病院が移転、新築、これ3
年目ですけど、私、資料持ってます。3年で、ほぼほぼ赤字を解消してます。3
年目には赤字が2億、3億いくら。ところがこれは、建物を壊した費用が2億い
くら入っていて、実質は、この坂出市立病院は、ほぼほぼうまくいってます。だ
から、そういう意味では一応資料として、同じようにできた病院が、一方では、
たぶん最大限の努力をしたんだと思えます。

それで、時間がないので、小豆島中央病院が開院7年目になります。町
からの病院への補助金負担金額の推移と、町として今後の病院経営についてど
う考えているのかお答え願います。

○議長（高橋正博君）

健康福祉課長 石床勝則君。

○健康福祉課長（石床勝則君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

小豆島中央病院の、町からの補助金負担金の推移につきましては、まず、小豆
島中央病院開設前の平成26年から平成30年まで5年間、運営資金といたしま
して総額6億1527万1千円を出資しております。

また、令和元年度につきましては、貸付金といたしまして8785万8千円貸し
付けしております。

令和2年度、3年度につきましては、運営補助的なものにつきましては支出し
ておりません。

病院事業分として国から支払われている交付税といたしましては、年間2億
円程度支出しております。また、病院における各事業への補助金のため、6年間
で約2億円支出しております。補助金につきましては、各年度の事業内容によ

り変動しております。

続きまして、小豆島中央病院の今後の病院経営については、というご質問でございますが、基本的には、病院単体として健全な経営できるよう要望しております。しかしながら、地域の中核医療を担う使命と役割を持つ公立病院には、採算のとれない診療科もございます。廃止することはできないので、構成団体である本町と小豆島町の両町長と病院管理者とで組織いたします開設者協議会や、両町の副町長をはじめ関係課長などで組織されました構成町連絡調整会議におきまして協議いたしまして、審議の後、必要に応じ、不足分につきましては運営補助しております。病院といたしましても、経営コンサルタントに委託し、業務改善計画を作成するなど、日々経営努力していただいております。3年度の決算につきましては、コロナ関連の国からの補助金などもあり、黒字になる見込みとなっております。

なお、小豆島中央病院におきましては医師不足が顕著となっており、病院経営にも多大な影響を及ぼしかねないことから、病院のみならず両町も協力して、医師確保に取り組んでいるところでございます。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

3番 大野一行君。

○3番（大野一行君）

確かに、課長のおっしゃるとおり、同じ意見なんですけど、この島唯一の総合病院ですから、ほんとにつぶすわけにはいかないんです。だからといって、ある意味、ある意味ですよ、表現が悪いかもしれませんが、ずっと、土庄町財政に負担がかかってくると、これは大変なことでもあるわけです。

坂出市立病院も今後の課題は、医者が足りない。全く同じ課題になっています。特に、小豆島中央病院は企業体という、ある意味、単純に申し上げますと、半官半民なんです。簡単に申し上げます。必ず、両町が補てんすることになってるんです。そういう意味で、もっともっと、俗にいう企業努力が問われるんではないかと思えます。

希望ですが、できたら、この次の議会でも、企業長の佐藤企業長に質問がしたいとは思いますが、無理であれば、別の方法を考えますが、議会に呼んでいただきたい。参考人としてお願いはしておきます。さまざまな質問したいです。私、最初から、企業長の話伺ってます。新病院ができる前から、中央公民館の集会とか、さまざまところで、流れは分かっていますので、お聞きしたいことがいっぱいありますので、できるなら、中央病院の企業長を参考人に呼んでいただきたいと要望しまして、私の質問終わります。